

| | |
|------------------|---|
| Title | 体育研究所年表 |
| Sub Title | |
| Author | 笹島, 恒輔(Sasajima, Kosuke) |
| Publisher | 慶應義塾大学体育研究所 |
| Publication year | 1972 |
| Jtitle | 体育研究所紀要 (Bulletin of the institute of physical education, Keio university). Vol.11, No.1 (1972. 2) ,p.61- 66 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 浅野均一教授定年退職記念特集号 |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00110001-0061 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

体育研究所年表

| | 体育科目・体育研究所 | 慶応義塾大学 |
|-------|---|----------------------------------|
| 昭和23年 | 9月 新制大学発足に際し大学で実施する体育について評議員会において浅野均一に一任 | |
| 昭和24年 | <p>4月 体育科目 教授 浅野均一(法学部), 助教授 兵藤昌彦(経済学部), 同 湯浅徹平(文学部), 同 小山濠一(工学部) で発足 体育実技—基本体育・選択種目体育 体育講義—体育理論・保健衛生・特別講義 選択種目体育は28種目実施とするも24年は施設の都合で総て選択種目で実施</p> <p>9月 体育科目の決定機関として各学部長, 各学部日吉主任, 実技指導員会議長, 体育会理事, 専任教員(助教授以上) で構成する体育委員会発足 大学体育研究会(早・慶・東・明・立・法・中・日・専) 発足 体力医学会設立</p> | <p>4月 新制大学発足</p> <p>10月 日吉返還</p> |
| 昭和25年 | <p>2月 日本体育学会設立</p> <p>4月 体育科目日吉で実施 選択種目体育より空手, フェンシングを除きスケートを加える 助手 林 正己, 土方久平採用</p> <p>7月 大学通信教育部の体育実技実施</p> | 4月 日吉で授業開始 |
| 昭和26年 | <p>4月 体育実技実習費 1,000 円徴集 助手 清水正彦(法学部), 唐沢 大(法学部), 日高富士夫(法学部) 採用</p> <p>9月 助手 唐沢 大(法学部) 退職 選択種目体育に弓術を加える</p> <p>12月 助手 笹島恒輔(法学部) 採用</p> | |

体育研究所年表

| | | |
|-------|---|--------------------|
| 昭和27年 | <p>3月 助手 清水正彦(法学部)退職</p> <p>4月 助教授 瀬尾審三(法学部)採用 基本体育一陸上競技・柔道・バスケットボール・バレーボール・ソフトボール・徒手体操・自動車の7種目3週間宛実施に変更, 外に体力測定2回 選択種目体育よりレスリング, ボクシング, アメリカンフットボール, 器械体操を除く 助手 小林弘平(経済学部)採用</p> <p>7月 専任講師 辰沼広吉(経済学部), 宮下道夫(文学部)採用 選択種目体育に柔道を加える</p> <p>11月 大学保健体育協議会設立</p> | |
| 昭和28年 | <p>3月 助手 小林弘平(経済学部)退職</p> <p>4月 助手 加藤敏子(文学部)採用</p> <p>11月 保健体育一貫教育研究会発足</p> <p>12月 体育実技用陸上競技場更衣室完成</p> | <p>9月 日吉第3校舎竣工</p> |
| 昭和29年 | <p>4月 助手 中井忠男(法学部), 鍛守富士子(経済学部)採用</p> <p>7月 選択種目体育にグライダー, バドミントンを加える</p> | |
| 昭和30年 | <p>4月 専任講師 辰沼広吉(経済学部)助教授(経済学部)に昇格, 助手 笹島恒輔(法学部)専任講師(法学部)に昇格, 助手 米村昌二(工学部), 本間周子(文学部)採用 基本体育よりソフトボールを除き, 陸上競技, 柔道, バレーボール, バスケットボール, 徒手体操, 自動車の6種目を4週間宛実施 病弱者の為の基本体育として軽体操を設ける</p> <p>6月 助手 加藤敏子(文学部)退職</p> <p>7月 選択種目体育に剣道を加えハイキングを除く。アメリカンフットボール希望者20名以上の場合実施</p> | |

体育研究所年表

| | | |
|-------|--|--|
| 昭和31年 | <p>4月 助手 有吉 清（経済学部）採用</p> <p>11月 大学保健体育協議会事務局となる</p> | |
| 昭和32年 | <p>3月 助手 有吉 清（経済学部）退職</p> <p>4月 助手 辻 瞭二（経済学部）採用 商学部設置に伴い助教授 瀬尾宥三（法学部）所属商学部となる</p> <p>10月 助手 木村正一（工学部）採用</p> | <p>4月 商学部設置</p> <p>12月 日吉第4校舎竣工</p> |
| 昭和33年 | <p>4月 助手 大泉清子（商学部）採用</p> <p>7月 選択種目体育よりグライダーを除く</p> | <p>10月 日吉記念館竣工</p> <p>11月 創立100年記念式典</p> |
| 昭和34年 | <p>4月 記念館・体育館の竣工により基本体育，バスケットボールを記念館，柔道を体育館で実施と変更，剣道（体育館で実施）を基本体育に加える 基本体育は柔道，剣道，陸上競技，徒手体操，バスケットボール，バレーボール，自動車の7種目中の6種目を一定の順序に従い実施，専任講師 金子国吉（商学部），福山清胤（文学部），助手 清水直臣（法学部）採用</p> <p>7月 選択種目体育よりレスリング，相撲，ボクシングを除く</p> | <p>4月 日吉体育館竣工</p> <p>5月 三田南校舎・西校舎竣工</p> |
| 昭和35年 | <p>4月 基本体育に水泳（夏期）を加えることになり自動車を除く 基本体育は最初に徒手体操，最後に体操，水泳（夏期），球技（バレーボールまたはバスケットボール），武道（柔道または剣道），陸上競技を4週宛実施</p> <p>7月 50m泳げない者の選択種目体育は総て水泳とする</p> | <p>2月 日吉プール竣工</p> |

体育研究所年表

| | | |
|-------|--|---|
| | | 10月 吾妻山荘竣工 |
| 昭和36年 | <p>2月 体育研究所第1回体育委員会開催，体育研究所専任者の出席資格を教授とする。</p> <p>4月 体育研究所の発足により専任者の所属は各学部より体育研究所となる 体育研究所所長に教授浅野均一就任 助教授 兵藤昌彦，湯浅徹平，辰沼広吉教授に昇格，専任講師 宮下道夫，笹島恒輔，助教授に昇格 専任講師 森下 孝採用</p> <p>10月 体育研究所紀要発刊</p> | 1月 大学体育研究所発足 |
| 昭和37年 | <p>4月 専任講師 福山清胤助教授に昇格 助手 鍛守富士子，中井忠男，米村昌二専任講師に昇格 助手 吉良光一採用</p> <p>11月 日本体育学会第13回大会を日吉に於て開催</p> | <p>5月 三田西校舎第2期工事竣工</p> <p>7月 館山合宿所竣工</p> <p>9月 日吉第5校舎竣工</p> |
| 昭和38年 | <p>4月 助手 木村正一，本間周子，辻 瞭二専任講師に昇格 選択種目体育32種目を8グループに分け，1グループ内で種目を選択と変更 専任講師 依田隆也採用</p> <p>7月 女子の選択種目体育の選択制を取り止め，全員に水泳4日，体操，バスケットボール，ダンスを各2日宛実施と変更</p> | |
| 昭和39年 | <p>4月 従来の体力判定 A・B・C（普通に実技を実施）を A・Bと改め，選択種目体育の体力判定の結果による優先を廃止。 基本体育は徒手体操，器械体操6週，水泳3週，徒手・陸上，球技(バレーボールまたはバスケットボール)，格技</p> | |

体育研究所年表

| | | |
|-------|---|--|
| | (剣道または柔道)を各5週,計24週と変更 8月 助手 吉良光一退職 | 6月 日吉第2プール (水球専用)竣工 |
| 昭和40年 | 4月 助手 小野清子,専任講師に昇格 助手 福本修二採用 | 1月 学費値上反対の 全学スト |
| 昭和41年 | 3月 専任講師 小野清子退職 4月 助教授 宮下道夫教授に昇格 専任講師 金子国吉助教授に昇格 助手 篠原しげ子採用 | |
| 昭和42年 | 4月 助手 清水直臣専任講師に昇格 | |
| 昭和43年 | 4月 専任講師 依田隆也助教授に昇格 専任講師 辻 瞭二退職 専任講師 橋本治雄採用 6月 ストライキ中も基本体育実施 7月 ストライキ中も選択種目体育実施 | 6月 米軍研究資金導 入によりストラ イキ 10月 ストライキ解除 |
| 昭和44年 | 4月 助教授 笹島恒輔教授に昇格 基本体育を体操6週(内体力測定2週),水泳4週,体操・ 陸上競技,バレーボール,バスケットボール,柔道, 剣道の6種目中2種目を各7週計24週と変更 6月 ストライキ中は基本体育,選択種目体育とも実施せずと 決定 9月 専任講師 橋本治雄米国エール大学に留学 11月 三田祭期間中夏期の選択種目体育を実施 12月 冬季休暇中夏期の選択種目体育を実施 | 6月 大学設置臨時措 置法反対のスト ライキ 9月 ストライキ解除 |

体育研究所年表

| | | | |
|-------|----|----------------------|--|
| 昭和45年 | 2月 | 春季休暇中44年夏季の選択種目体育を実施 | |
| | 3月 | 教授 浅野均一定年退職，名誉教授推薦 | |

(文責 笹島恒輔)